

2月14日は、初めて天然痘の予防接種が成功した日です!!

新型コロナウイルスが猛威を振るう中、200年以上も前に人類史上初のワクチンである天然痘ワクチン「種痘」を日本で初めて普及させ、多くの命を救った人がいます。

朝倉藩（現在の福岡県朝倉市）の藩医、緒方春朔（おがた しゅんさく）です。

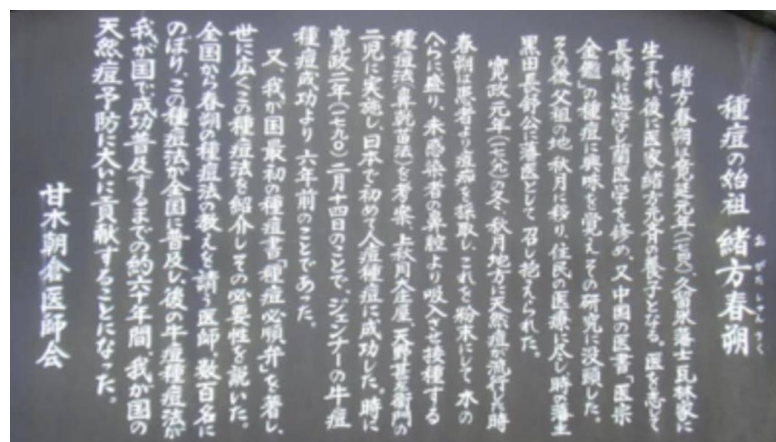
『種痘の始祖』と呼ばれています。



1790年（寛政2年）2月14日、緒方春朔が大庄屋の天野甚左衛門（あまの じんざ えもん）は、「多くの人が救われるために子供を治験に使ってほしい」と申し出、二人の子どもに、初めて天然痘の予防接種である人痘種痘法を実施し成功させました。

二人の子供は接種から2日後、天然痘の症状を発症したがその後10日ほどで回復したとのことでした。

緒方春朔の人痘種痘の手順
（高田理事長の話をもとに作成）



「近代免疫学の父」と称される医師、エドワード・ジェンナーが天然痘に似たウイルス性伝染病にかかった牛の膿（うみ）を人に接種する「牛痘種痘法」を実施する6年前のことです。

秋月藩主の黒田長舒（くろだ ながのぶ）は、緒方春朔を藩医に取り立て種痘研究を助け、成功した種痘を全国に広げるように支援しました。

朝倉市には、秋月城趾の周辺に秋月郷土館（秋月歴史資料館、秋月郷土美術館）や緒方春朔の屋敷跡（現在は民家）、緒方春朔の墓が建立されている「長生寺（ちょうしようじ）」などがあります。



【天然痘】

天然痘ウイルスを病原体とする感染症です。

疱瘡（ほうそう）、痘瘡（とうそう）とも言います。

強い感染力を持ち高熱が出て、致死率が高く、紀元前より死に至る疫病として恐れられていました。

治癒した場合でも顔面にあばたが残ります。

天然痘ワクチンの接種（種痘）により発生数は減少。

1980年（昭和55年）、世界保健機関（WHO）が「世界天然痘根絶」を宣言しました。

2022年2月14日

福岡ワンヘルス協議会・事務局